

平成 27 年 4 月 22 日（水）に開催した平成 27 年度第 1 回公立大学法人静岡文化芸術大学役員会の結果は次のとおりである。

1 議案

受託事業について

ア 趣旨

静岡県からの富士山世界遺産センター(仮称)ロゴマーク作成事業、浜松市からの中山間地域集落の活性化を促進するための地域づくりインターンモデル事業の 2 件を、それぞれ受託することについて、その承認を求める。

イ 主な意見

特になし

ウ 審議結果

審議を踏まえ、議決された。

2 報告事項

平成 27 年度入学者選抜結果について

事務局から、ここ数年の入試結果と比較して、文化政策学部は各学科とも志願者数が減少したこと、その理由としてセンター入試の国語平均点が高かったことによる志願者の上位校への流出、景気の回復に伴う県外校への流出、国際関連の競合校の影響を受けたことなどが考えられるとの報告がされた。併せて、入学者の県外比率、新卒既卒比率及び男女比率については、前年とほぼ同様であることが報告された。

3 その他

文化政策学部の再編について

ア 趣旨

今回の入試における志願者倍率の低下を踏まえ、来年度からの検討を予定していた文化政策学部の名称及びその構成等の再編に係る見直しを、本年度から行うことについて報告がされた。

イ 主な意見

- ・国際文化学科、文化政策学科のコンセプトの整理が必要であり、それが明確にならないと入口も出口もはっきりしない。
- ・静岡県というこの地域が、どのような人材を求めているかが重要である。文化政策の力が求められているのか、総合職として広い教養を持った人材が求められているのかを確認する必要がある。
- ・文化政策学部の中に国際文化学科があるなど、学部と学科がマッチングしていない面がある。
- ・大学も TV コマーシャルを流す時代であるので、社会にどうアピールするかも重要である。
- ・地域企業は、文化の大切さも認識してはいるが、経済を重視している。

以上により議事を終了した。